

## 軽度の飲酒でも心臓血管病リスク上昇～遺伝疫学研究より～

これまでの観察研究により軽度の飲酒は心臓血管病によいことが示されてきたが、最近の遺伝学的研究ではアルコールの摂取により心臓血管病リスクが上昇することが示されている。本研究では、さまざまな量のアルコール摂取と心臓血管病リスクとの関連について遺伝疫学的に検討した。

英国の大規模前向きコホート研究 UK Biobank の参加者のうち、週に平均 9.2 杯のアルコール飲料を摂取する 371,463 例が対象となった（平均年齢 57.0 歳、男性 46%）。全体の 33% が高血圧症であった。解析の結果、軽度から中程度のアルコール摂取は健康的なライフスタイルと関し、これらを調整したところ、適度なアルコール摂取による心臓保護的な疫学的関連は減弱した。また、線形メンデルランダム分析では、遺伝的に予測されるアルコール摂取量の増加が 1 標準偏差増加するごとの高血圧リスクは 1.3 倍（ $P < 0.001$ ）、冠動脈リスクは 1.4 倍（ $P = 0.006$ ）高くなった。さらに、非線形分析ではアルコール摂取と高血圧症および冠動脈疾患に非線形の関連がみられた。すなわち、軽度のアルコール摂取でも心臓血管病リスクはわずかながらも上昇し、高度のアルコール摂取では症候性および無症候性心臓血管病リスクが指数関数的に上昇した。

今回の遺伝疫学的研究の結果から、これまでの疫学研究で示されてきた軽度から中程度のアルコール摂取の有益性は、ほかの健康的なライフスタイル因子の影響によるものである可能性が示唆された。

出典：Journal of American Medical Association. Network Open. 2022 Mar 1; 5(3): e223849.